



真言密教の総本山高野山から熊野へと続く熊野参詣道小辺路の途中にある『果無集落』。石段が続く古くからの風情と周りは十津川の山々の絶景が得られる



十津川村で最も多くの旅館や商店が集まる二津野ダム湖畔に位置する「十津川温泉」

子供も大人もドキドキワクワクの十津川特有の人力ロープウェー「野猿」



湯泉地温泉の離れ宿『やど湯の里』の十津川の清流と山々を眺めながら入れる露天風呂

十津川村では至る所に見られる生活用吊り橋の1つ「柳本橋」

文・撮影 大川哲次（弁護士）
日本旅のペンクラブ理事、日本山岳会会員、温泉学会副会長、大阪ユネスコ協会理事、関西ハンガリー交流協会理事、司法修習生時代から人や食文化、自然との出会いを求めて日本や海外への旅を続ける。
日本百名山 全山登頂、日本の温泉1969カ所入湯 秘境・世界遺産・温泉等を中心に海外103カ国訪問、平成24年7月から大阪日日新聞土曜版に毎週「天保発 一度は訪れたい癒しの温泉巡り」執筆中。



日本で一番大きな村
私は奈良市に住んでいるが、この村のよさに惹かれて毎年5回は訪れる。十津川の一歩の魅力は、湯泉地（とうせんじ）温泉・十津川温泉・上湯温泉の3カ所の温泉。「心身再生の湯」と称される源泉掛け流しの「ほんまもん」の温泉だ。560年余の歴史を数え十津川沿いに湧く山峡の湯「湯泉地温泉」は、特に好きな湯。次の魅力は、古（いにしえ）の時代より時を刻んだ熊野古道。山岳修験の拠点「大峯奥駈（おくがけ）道（どう）」、真言密教の総本山高野山から熊野へと続く巡礼道「小辺路」。玉置山頂上近くに鎮座し、熊野三山の奥の宮と言われ、自然と文化の宝庫「玉置神社」、苔むした石段が続く参詣道の風情と美しい山々が眺められる「果無集落」は必見。
日本一長い生活用吊り橋「谷瀬の吊り橋」、国特別名勝の大峯谷「瀨峡（どろきょう）」、十津川村特有の人力ロープウェー「野猿（やえん）」、全長167km、停車所数167カ所の八木駅と、新宮駅の間を走る「日本一長い路線バス」など、十津川村の魅力は尽きない。